沖代地区条里跡
57次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022
中津市教育委員会

沖代地区条里跡　57次調査　集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告　第110集
2022　中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出を受け、工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

本年度、市内では民間開発に伴う発掘調査が行われ、県道拡幅に伴う発掘調査も大分県教育委員会により実施されております。

本書はこうした開発の中で、沖代地区条里跡において行われた集合住宅建設に先立つ発掘調査の報告書です。調査により弥生時代の土坑などが発見されました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護や活用への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました久恒利明様をはじめ、調査に従事して下さった方々に対し深甚から感謝申し上げます。

令和4年3月31日

中津市教育委員会
教育長　粟田　英代

例　言

1．本書は大分県中津市教育委員会が令和3（2021）年度に実施した沖代地区条里跡57次調査の発掘調査報告書である。
2．確認調査は丸山が担当した。本調査は久恒利明様より委託を受けた中津市教育委員会が行い、浦井が担当した。
3．出土遺物の整理作業は、本年度に実施し、遺物は旧東谷小学校にて保管している。
4．遺物の洗浄・注記・実測・拓本・浄書等は、旧和田公民館にて行い、整理作業員の協力を得た。
5．本書の執筆・編集は浦井が担当した。

目　　次

序

例言

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の方法と成果 …… 4
　第１節　調査の方法 …… 4
　第２節　調査の成果 …… 4
第４章　総括 …… 6

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第1図　調査区位置図 …… 1
第2図　中津市内主要遺跡分布図 …… 3
第3図　遺構配置図 …… 4
第4図　調査区南壁・東壁、SK-1・SK-2、出土遺物 …… 5

写真図版目次

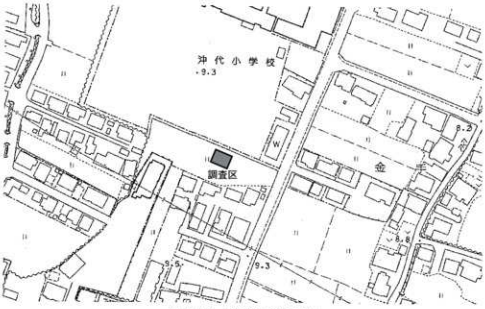
写真図版１　調査区全景
写真図版２　調査区南壁　調査区東壁　SK-1完掘状況　SK-2完掘状況　出土遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

令和３年５月10日、中津市中央町２丁目21番１地内の埋蔵文化財包蔵の照会がなされた。照会地は沖代地区条里跡である旨回答し、令和３年６月８日、株式会社SMALL WEST代表取締役より文化財保護法第93条の届出が提出された。これを受けて、令和３年７月21日に確認調査を実施し、設定した３か所のトレンチの内、最も東の３トレンチにおいて溝状遺構・柱穴などが検出された。大和ハウス工業株式会社大分支店を介し施主へ工法変更による遺構の保存について協議したが、工法変更は困難との結論に至り、記録保存するための本調査を行うことが決定した。７月29日、土地所有者と中津市長名にて発掘調査委託契約等を締結した。８月16日から調査に着手することとしたが、数日間にわたる時期外れの大雨により延期を余儀なくされ、８月24日から９月10日まで本調査を実施した。

調査の結果、土坑２基、53基の柱穴などを確認した。調査終了後、整理作業を開始し、令和４年３月の本書刊行をもって本事業を完了した。



第１図　調査区位置図

第２節　調査体制

中津市教育委員会	教育長		粟田　英代
〃	教育次長		黒永　俊弘
〃	社会教育課長		岩丸　祐子
〃	〃　歴史博物館長		高崎　章子
〃	〃	副館長兼主幹	花崎　　徹
〃	〃	副主任研究員	浦井　直幸（本調査）
〃	〃	主査	丸山　利枝（確認調査）

発掘調査は下記の皆さんの協力による。（50音順、敬称略）

衛藤敏章　甲斐嘉夫　川野和夫　後藤満廣　本田廣和　野田英幸　松隈忍　松嶋博　宮津しのぶ

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約８万４千人、面積491㎢を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬渓として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。中津城下町遺跡は山国川の支流中津川河口に位置する。

第２節　歴史的環境

旧石器時代　市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

縄文時代　上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、妊婦像の土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

弥生時代　前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

古墳時代・古代　亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられ、近年の調査により埴輪片が出土している。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中頃には山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（45）や定留遺跡（47）でまとまって発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺（6）が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踊ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡（60）がある。

中世　長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世　関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。

1. 中津城跡
2. 中津城下町遺跡
3. 豊田小学校校庭遺跡
4. **沖代地区条里跡**
5. 市場遺跡
6. 相原廃寺
7. 相原山首遺跡
8. 鶴市神社裏山古墳
9. 坂手隈城跡
10. 幣旗邸古墳群
11. 上ノ原横穴墓群
12. 拝助野地遺跡
13. 上ノ原平原遺跡
14. 大池南遺跡
15. 佐知久保畑遺跡
16. 佐知遺跡
17. 加来居屋敷遺跡
18. 黒水遺跡
19. 法垣遺跡
20. 長者屋敷官衙遺跡
21. ボウガキ遺跡
22. 大悟法地区条里跡
23. 原遺跡
24. 田丸城跡
25. 福島遺跡
26. 福島地下式横穴
27. 前田遺跡
28. 森山遺跡
29. 岩井崎横穴墓群
30. 犬丸川流域遺跡
31. 畑中遺跡
32. 安平遺跡
33. 城山横穴墓群
34. 城山古墳群
35. 才木遺跡
36. 城山窯跡
37. 草場窯跡
38. 踊ヶ迫窯跡
39. ホヤ池窯跡
40. 大谷窯跡
41. 野佚遺跡
42. 野佚地区条里跡
43. 上畑成遺跡
44. 諸田南遺跡
45. 諸田遺跡
46. 天貝川遺跡
47. 定留遺跡
48. 定留貝塚
49. 和間貝塚
50. 定留鬼塚遺跡
51. 是能遺跡
52. 田尻大迫遺跡
53. 舞手橋東段上遺跡
54. 是則遺跡
55. 全徳遺跡
56. ガラヌノ遺跡
57. 合馬遺跡
58. 亀山古墳
59. 東浜遺跡
60. 三口遺跡

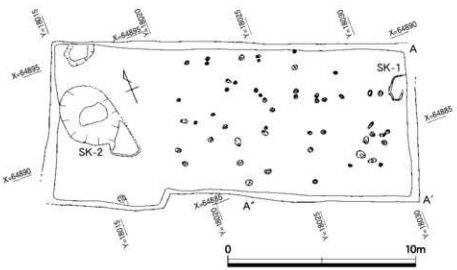
第２図　中津市内主要遺跡分布図（S＝1/50,000）

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１．調査の概要（第３図）

本調査は建物建設範囲のうち165㎡を対象とし、重機により掘り下げを行った。遺構検出面の標高は8.6ｍ、地形は東から西にかけて緩やかに降下しており、東端部は標高8.7ｍ、西端部は標高8.4ｍを測る。中央部から東寄りにかけて柱穴群を確認し、調査区の東西端部で土坑を検出している。調査区より出土した遺物は極めて少なく、SK-1出土の弥生土器のみが遺構に伴う唯一の遺物であった。



第３図　遺構配置図（S＝1/200）

調査区南壁の土層堆積状況を見ると、地山である茶褐色砂質土（Ⅵ層）の上に黒褐色粘質土（Ⅴ層）が20㎝程堆積する。その上に暗灰褐色粘質土（Ⅳ層）や灰色を基調とする砂質土（Ⅲ-1）、砂層（Ⅲ-2）がある。部分的にⅣ層に食い込むような箇所もあり、この状態は調査区東壁の一部にも認められる。洪水層であろうか。その上は中近世の遺物が混入する黄褐色砂質土（Ⅱ層）が水平堆積し、現代の水田層Ⅰ層が形成されている。１はⅢ層より出土した土師器の土錘である。

第２節　調査の成果

SK-1（第3図）

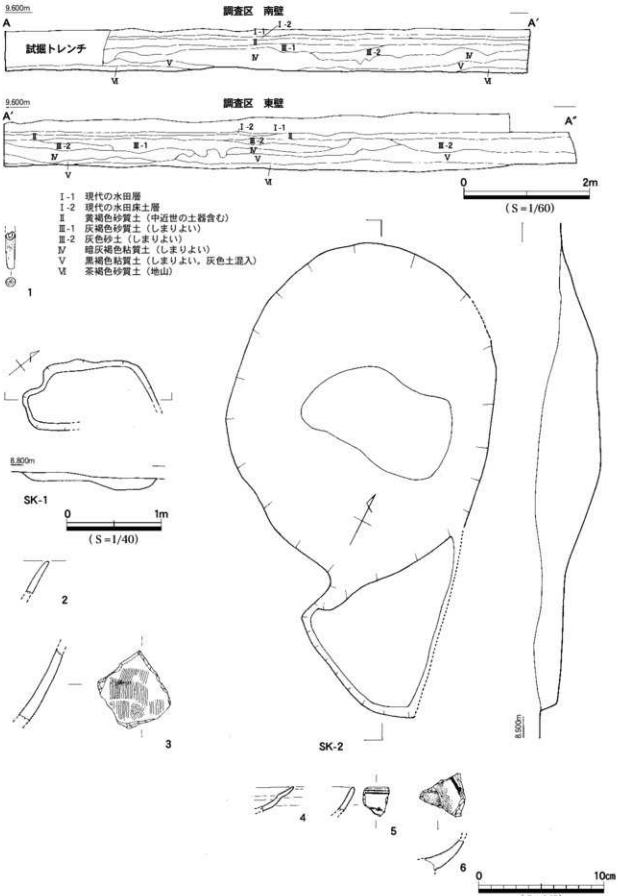
調査区東端で検出した。長さ1.4ｍ、幅72㎝、深さ10㎝を測り、平面略長方形状を呈する。

遺物は器種不明の弥生土器が２点出土した。２は口縁部片である。３は胴部片であり、外面に縦方向刷毛目を施す。

SK-2（第3図）

調査区東端で検出した。長さ５ｍ、幅2.5ｍ、深さ66㎝を測る。平面形は南側にテラス状の段があり、その北下は楕円形状を呈し、凸レンズ状に窪む。埋土は黒褐色粘質土の堆積後、灰褐色粘質土が堆積するが、非常に硬く締まっており掘削する作業員の手を煩わせた。遺物は出土しておらず、自然の落ち込みの可能性もある。

その他、調査区外より遺物の破片10数点を表採しているが、この内３点を図化した。４は磁器の皿で、青磁釉が施してある。中世か近世の所産の可能性がある。５は近世の陶胎染付の碗。６は磁器の碗底部である。



第４図　調査区南壁・東壁（S＝1/60）、SK-1・SK-2（S＝1/40）、出土遺物（S＝1/3）

第4章　総　括

今回の調査では土坑3基、柱穴53基を検出した。時期が判明した遺構は、弥生土器が出土したSK-1のみであったが、調査地北の沖代小学校における1982年度のプール建設に伴う発掘調査では弥生土器と共に弥生人の足跡が検出されたという。また1981年度の小学校校舎建設に伴う調査でも時期不明の土坑が、1983年度の調査では中世の可能性のある溝状遺構が検出されている。

一程度、弥生時代の遺構・遺物が確認されており、当該期の集落が付近に展開する可能性があることが今回の調査により改めて示されたことになる。

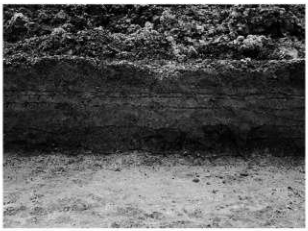
調査区南壁で確認された砂質のⅢ層は特色のある層位であった。この層位の特徴は、砂質であること、下位の黒色土層へ鋸歯状の断面形状を残すことにある。洪水層であれば面的に広がっていた下位層を浸食することでこのような形状になったとも考えられる。あるいは耕作による痕跡とも考えられるが、砂質の層は今後の条里内の調査の際に注意すべき層であろう。

今回の調査は沖代地区条里跡の歴史を考える上で貴重な調査となった。今後、沖代地区条里跡形成の解明に期待したい。

以上、沖代地区条里跡57次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

写真図版1

調査区全景（東から）

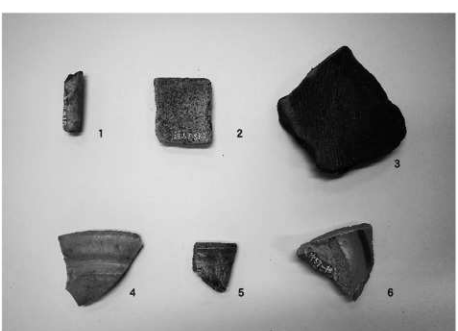


調査区南壁

調査区東壁

SK-1完掘状況（東から）

SK-2完掘状況（北西から）



出土遺物

報 告 書 抄 録

書　　名	沖代地区条里跡57次調査
副　書　名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第110集
編 著 者 名	浦井　直幸
編 集 機 関	中津市教育委員会
所　在　地	〒871-8501　大分県中津市豊田町14番地3　TEL 0979-22-1111
発行年月日	2022年3月31日

所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(㎡)	調査原因
沖代地区条里跡 57次調査	大分県中津市 中央町2丁目21番1	44203	203007	33° 58′ 5″	131° 19′ 3″	20220824 ～ 20220910	165	集合住宅 建設

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖代地区条里跡 57次調査	条里跡	弥生・古墳・古代・ 中世・近世	柱穴・土坑	弥生土器	—

要　約	弥生時代の土坑などを確認した。

沖代地区条里跡57次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第110集

2022年3月31日

発行　中津市教育委員会
印刷　㈱川原田印刷社